法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-09

楠川文庫蔵書目録(付解題)

伊海, 孝充

(出版者 / Publisher)
法政大学能楽研究所 / The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute of Hosei University
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
NOGAKU KENKYU : Journal of the Institute of Nogaku Studies / 能楽研究 : 能楽研究所紀要
(巻 / Volume)
29
(開始ページ / Start Page)
53
(終了ページ / End Page)
85
(発行年 / Year)
2005-05-31
(URL)
https://doi.org/10.15002/00002856

Hosei University Repository

楠川文庫蔵書目録（付解題）

伊海孝充

はじめに

楠川文庫は一九六九年六月二十四日に楠川正範氏が亡くなった後、夫人から寄贈された能楽資料である。夫人の没後、長女辻雅子氏から実技関係の資料の追贈を受け、現在では約一〇〇点にのぼる。本研究所には最初に寄贈された分の仮目録は存在していたが、全体の目録を提示するのは今回が初めてとなる。楠川氏が亡くなられたから既に三十年以上の年月が過ぎており、目録作成の遅延は誠に申し訳なく、ご遺族の方々にまずお詫び申し上げたい。

楠川正範氏（一九〇七―一九六九）は大正・昭和期に活躍した能楽シテ方の役者である。米沢で生まれ、はじめ坂戸金剛の最後の宗家である金剛右京（一八七二―一九三六）に師事し、東京金剛会を中心に活動していた。右京没後も金剛流職分として活躍していたが、一九四八年に観世流に転流し、坂井音次郎門下の師範となった。観世流に移ってからは芳朗と改名し、約二十年、観世流の役者として舞台に立ち、生涯を終えている。

本文庫の資料は金剛流関係のものが中心であり、多くの謡本には朱で型などの演出事項が書き入れられており、当時の演能の様相を知る上でも貴重な資料と言える。また楠川氏は大変筆まめな方であったようで、金剛右京をはじめとして、様々の人物から伝書類を借用し書写しており、中には下間少進の『叢伝抄』など江戸初期資料の写しも存在する。書写された伝書の多くは、表紙・添紙・角裂などを施し、丁付を付した美麗な和装本として整理されている。さらに、金剛流以外では仙台伊達藩に縁りの謡本・小謡本なども含まれており、資料的価値の高いものが少なくない。

目録では、これらの資料を内容に応じて、**一** 謡本、**二** 部分謡、**三** 伝書、**四** 付、**五** 史料、**六** 能番組、**七** 活字本に分類した。本来であれば、写本・刊本や流派の差異などを念頭に、さらに細分化すべきであろうが、全体の点数を考慮して大きく分類し、小見出しを付けることでこれらの差異が判るように示した。

Hosei University Repository

なお目録・解題作成にあたり、『鴻山文庫蔵能楽資料解題』、『古川文庫蔵書目録』(本誌二十六号所収)、『早稲田大学演劇博物館所蔵特別資料目録5貴重書 能・狂言篇』を参照し、他の所員の方々から助言を得た。また刊本謡本の組み合わせ記号(内組Mなど)は『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』に拠る。

一 謡本

[写本]

《金春流》

1 享保十七年伊達吉村写金春大蔵流三番綴本 半紙本一冊

内題:所収曲の曲目 外題:所収曲の曲目

原装栗皮色表紙(二二・七×一五・七糎)。中央上部鱗模様入横長題簽。本文料紙には上質の斐紙を使用。墨付四十四丁。直シなし。

【曲目】 角田川 鸚鵡小町 愛染川

【奥書】 此一冊大蔵太夫稽古之本借用/今度奥陽逗留之間書寫之/節等悉ク以自筆附之畢/享保十七年/菊月下旬 (花押)

【内容】 詞章は下掛りの特徴(例えば〈角田川〉のワキツレを商人とするなど)を有しており、奥書を信じ大蔵大夫系本と考えてよいだろう。全曲に朱で直シが入る。

本書奥書には署名はないが、同文庫蔵伊達吉村筆乱曲集(二一)と書写年・花押やその他の本の性質が一致するので、本書も吉村筆と信じられる。二一参照。

2 江戸期写金春大蔵流謡本「望月」 半紙本一冊

内題:望月 外題:望月

原装丸型箔付白表紙(二三・四×一五・七糎)。中央桜模様入薄藍色長形題簽。本文料紙は最上の斐紙を使用。墨付十二丁。片面六行。奥書なし。直シなし。

【内容】 奥書などがなく、本書だけでは素性不明であるが、能楽研究所蔵伊達家旧蔵金春大蔵流謡本が同じ装丁であるので、これの離れであると考えられる。状態もよく、美麗な本であり、伊達吉村筆本と同一の料紙を用いているので、伊達家が所持していた本であろう。節付は簡略なので、実用の謡本ではない。

《金剛流》

3 明治三十九年五月写金剛流五番綴謡本 半紙本四十四冊(内組二十冊、外組二十冊、番外二冊、乱曲一冊、曲舞一冊)

内題:所収曲の曲目 外題:所収曲の曲目

原装布目地浅緑表紙(二三・三×一六・〇糎)。中央上部横長題簽。本文料紙は楮紙。各冊表紙見返しに楠川氏の蔵書印。

【奥書】 乱曲・曲舞を除く全冊に「明治三十九年五月 印 (大熊)」とある。

【内容】 内組・外組各二十冊は山岸本と同組であり、この系統の本を基に書写されている。番外二冊は「鱗形・高野物

Hosei University Repository

狂・藤・三笑・龍虎・雷電〈早舞〉」組と「枕慈童〈前後習〉・現在忠度・落葉・恋松原・豊国詣・一来法師」組の各六曲所収となっており、この内「藤・恋松原・高野物狂」は明治四十五年楠刊本から外組として加わっている。筆跡から、楠川氏書写本と思われる。

4　明治四十三年金剛直喜写「翁」　大本一冊

内題：翁　外題：於貴名

仮綴本（二七・九×二〇・一糎）。表紙に「於貴名　明治四十三年十二月節附　雅之（印）」と墨書。本文料紙は楮紙使用。墨付三丁。

【奥書】　金剛直喜（印）　謹而節附

【内容】　〈翁〉の金剛流謡本。最後に「神前式」の詞章を載せる。

5　大正十五年吾有斎写金剛流一番綴謡本　半紙本三冊

内題：所収曲の曲目　外題：所収曲の曲目

表紙は楮本（一13）の再利用（二四・二×一六・九糎）。中央上部長形題簽。本文料紙は薄葉紙を使用。一丁表に各冊の曲目を大きく墨書する。それ以外の特徴は各冊異なる。各冊題簽に「弘田氏」の印が有る。

〈加茂物狂〉　本文最後に「大正丙寅初秋　吾有書〔印〕〔印〕」の奥書。全丁無章句。

〈三山〉　本文最後に「大正内寅處暑日　吾有斎書〔印〕〔印〕」の奥書。全丁にわたり型付を朱書。ワキ着ゼリフとその後の問答の詞章が二箇所訂正されており、いずれも現行と同じ文句に変更されている。

〈求塚〉　内題「求女塚」。本文最後に「大正丙寅處暑日　吾有斎書〔印〕〔印〕」の奥書。全丁無章句。全丁にわたり型付が朱書されている。

【内容】　いずれも現行金剛流の詞章・節付。各冊奥書にある「吾有斎」なる人物は未詳。

6㋑　書写年不明金剛流十番綴内組謡本　半紙本十冊

内題：所収曲の曲目　外題：所収曲の曲目

原装香色表紙（二四・一×一六・五糎）。中央上部金箔散らし横長題簽。全冊添紙を二丁分入れた後に目次を付す。本文料紙は薄葉紙。片面六行。奥書なし。折り目下部に本文丁数を付す。全冊曲名の小口書あり。

【内容】　書写年不明ながら、山岸本内組と同じ曲組になっており、行数も一致している。同系統の本を基に楠川氏自身が書写されたと考えられる。全冊全丁にわたり、型付などを朱書・墨書する。また12と同様に、薄葉紙を挟み、詳細な型付などを書写する曲もある。この料紙は本文料紙と同種であり、すべて楠川氏が書写したものと思われる。

6㋺　書写年不明金剛流十番綴外組謡本　半紙本十冊

内題：所収曲の曲目　外題：所収曲の曲目

Hosei University Repository

原装薄香色表紙(二四・一×一六・五糎)。

【内容】 装丁・書式は㋑とほぼ同一で、表紙と色のみが異なる。本書は山岸本外組と同じ組み合わせで十番綴にまとめたもの。また山岸本を基にした明治四十五年檜書店刊五十番綴本は山岸本と三曲の出入りがあるのが、本書は山岸本系と一致するので、それ以前刊行の本を基に書写されたと考えられる。楠川氏が書写したものと思われる。

7　書写年不明金剛流番外謡本　半紙本二冊

内題：所収曲の曲目　外題：所収曲の曲目

表紙は明治期檜本(一13)を再利用(二四・五×一七・二糎)。裏表紙見返しにある奥書もそのまま残る。中央上部横長題簽。本文料紙は楮紙。墨付【一】三十四丁【二】四十五丁。薄緑色角裂あり。

【曲目】 一冊目：鱗形　三笑　現在忠度　落葉　藤　恋松原(題簽には「翁・弓矢立合」もあるが、本文はなし)　二冊目：高野物狂　枕慈童　豊国詣　一来法師　龍虎　雷電

【内容】 詞章・節付は明治期・現行謡本とかわりなく、明治以降刊行本を基に書写と考えられる。また鱗形・現在忠度・高野物狂などの内題の上に、本文と同筆で「番外」と付されているが、藤・恋松原・高野物狂は明治四十五年檜本では外組に加えられている。楠川氏が書写し、製本したものと思われる。

8　書写年不明「せきてらこまち」　大本一冊

内題：なし　外題：(打付)せきてらこまち

仮綴本(二六・五×一九・五糎)。表紙中央に「せきてらこまち」と墨書、その下に「金剛文庫」の印。本文に薄葉紙を使用し、部分的に銀箔が施されている。墨付九丁。

【内容】 全丁にわたり囃子手付が朱書されており、本文最後に「二段メヲロシ」と唱歌が若干付されている。詞章・節付は現行金剛流のものと同一で、明治～昭和の間に書写されたものと考えられる。

【刊本】

《観世流》

9㋑　明治三十二年～三十四年檜常之助刊観世流五番綴謡本　半紙本四十一冊

内題：所収曲の曲名　外題：所収曲の曲名

原装巻水・千鳥模様空押茶色刷毛目模様入練色表紙(二二・六×一六・二糎)。金箔散らし横長題簽(全冊「柴山」の印あり)。版心に曲名・曲ごとの丁数を刻す。全冊組番号(朱)・曲目(墨)の小口書あり。箱入り(一六・九×三七・四×五〇・一糎)。

【刊記】 明治卅二年六月廿五日従／同卅四年一月廿八日迄／東京市牛込區新小川町二丁目十番地／改訂者　観世清廉／(電話番町三百十六番)／京都市上京區二条通御幸町西へ入／發行兼印刷者／檜常之助／(特電話二千百九十番)。　年記の

Hosei University Repository

下に「出版御届済」と刻す。訂正者・発行兼印刷者を列記し、その上に「版権所有」刻し「宗家観世之印」の印を押す。「檜常之助」の上にも印有り。

【曲目】内組M・外組k・外組Iの揃

【内容】『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』一四19㋺と同版の揃本で、装丁も同一。全冊直シ・仕舞付・囃子事などが朱で加えてある。朱は楠川氏の手と思われ、「昭和三十二年一月十三日観世会ニテ勤ム」(養老)のように、自身が演じた時の書き入れがあるが、「大正十三年十一月　元滋(花押)」「連形(　)内ハ別本ノ写之」(通小町)など他本(特に観世元滋の本)の型を写したものも多い。また舞事などは薄紙などを挟み、詳細に記述している。

9㋺　明治二十七年檜常之助刊観世流追加曲謡本

半紙本一冊

内題:所収曲の曲目　外題:所収曲の曲目

群翔千鳥模様空押茶色表紙(二二・四×一六・三糎)。金箔散らし横原装長題簽(全冊「柴山」の印あり)。版心に曲名・曲ごとの丁数を刻す。曲目(朱)の小口書あり。㋑と同じ箱入り。

【刊記】右之本者観世太夫織部以章句/眞本令版行畢　天保十一年庚子歳孟春改正再板/皇都二条通御幸町西江入町/旧山本長兵衛/明治廿七年六月六日印刷/明治廿七年六月十二日発行/東京市麹町區飯田町四丁目壱番地/宮内庁御用達/訂正者　観世清廉/京都市二条通御幸町西十一番戸/発行者兼印刷者　檜常之助　訂正者・発行者兼印刷者の上に「版権所有」を刻す

【曲目】仲光　むめ　笛之巻　木曽　楠露　高野物狂　菊士童

【内容】㋑と同箱に保管されており、同じ「柴山」の印がある。㋑を補完するために補充された本であろう。〈菊士童〉のみ朱で型が加えられており、最終丁には楽の詳細な型が朱書されている。

10　明治三十九年～四十一年檜常之助刊観世流五番綴謡本

半紙本四十五冊

内題:所収曲の曲名　外題:所収曲の曲名

原装観世水・矢車・千鳥模様空押縹色表紙(二二・六×一六・二糎)。金箔散らし横長題簽。版心に曲名・曲ごとの丁数を刻す。全冊組番号(朱)・曲目(墨)の小口書あり。箱入り(二六・〇×三七・五×四九・二糎)。

【刊記】印刷年月日と発行年月日を列記(明治三十九年十一月十五日～同四十一年六月十五日)東京市牛込區新小川町二丁目十番地/改訂者　観世清廉/(電話番町三百十六番)/京都市二条通麩屋町角十二番戸/発行兼印刷者　檜常之助/(特電話二千百九十番)/(振替貯金三五五貳)

訂正者・発行兼印刷者を列記し、その上に「版権所有」刻し「宗家観世之印」の印をおす。「檜常之助」の上にも印有り。

Hosei University Repository

【曲目】 内組M・外組k・外組l・明治追加七番(木曽・仲光・梅・楠露・高野物狂・笛之巻・菊慈童)・乱曲集(天・地)

【内容】『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』一四21と同種で、装丁も同一。全冊若干の直シ(朱)と訂正跡がある。

11 昭和四年檜書店刊観世流一番綴謡本「春日竜神」 半紙本一冊

内題:春日龍神　外題:春日龍神

原装翔群千鳥・菊水空押模様薄茶色表紙(二二・六×一六糎)。中央長形刷題簽。

【内容】 大正版の十版。昭和三年から合資会社となった檜書店からの出版。シテの型について書かれた紙を二枚挟む。

《金剛流》

12 明治三十一年四月檜常之助刊金剛流十番綴本 大本二十冊揃(内組十冊　外組十冊)

内題:所収曲の曲目　外題:所収曲の曲目

原装九曜及丸型沢潟紋空押文様薄茶色表紙(二五・五×一八・二糎)。中央上部横長題簽(内組一・二・五・七・九冊目と外組十冊目には曲目が記されていない)。本文料紙は楮紙。片面六行。咽に丁付を曲ごとに刻し(箙ノ一、一高一(高砂の場合)など数種)、各丁表左下にも丁付を墨書する。薄茶色角裂あり。

【刊記】(各冊に有) 東京市麹町区麹町七町目二拾番地 改訂者金剛右京　京都市下京區室町通四條上ル六番戸 改訂者金剛直喜　京都市上京區二條通御幸町西十一番戸 発行印刷者檜常之助

【内容】 明治十五年刊山岸本の版木を基に出版された本で、曲組は山岸本(五番綴)二冊分を合わせた形。同種の本は『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』一七4㋑・㋺にもあるが、本書は十番綴である点が異なる。咽の丁付の他にも、丁付が墨書されているので、楠川氏が十番綴の体裁に整えたと考えられる。改訂者の一人を「金剛鈴之助」ではなく「金剛右京」とする点はロ(一番綴)と同一。全冊全曲にわたり、行間・上部余白に型付などを朱書・墨書する。また白半紙を挟み、詳細な装束付を付す曲(紅葉狩・鞍馬天狗・雷電・舎利・壇風)、神楽及び唱歌を付す曲(巻絹)、特殊な舞事を付す曲(海人・猩々)などがある。

13㋑ 明治三十一年檜常之助刊金剛流一番綴謡本 半紙本一九七冊

内題:各冊の曲目　外題:各冊の曲目

原装九曜及び丸型沢潟空押模様茶色表紙(二二五・〇×一七・七糎)。横長刷題簽。本文料紙は楮紙。片面六行。

【刊記】(全冊あり) 明治卅一年四月十二日訂正印刷／同年四月十九日発行／東京市赤阪區青山南町五丁目三番地／改訂者　金剛鈴之助／京都市下京區室町通四條上ル六番戸／訂正

Hosei University Repository

者　金剛直喜／京都市上京区二條通御幸町西十一番戸／発行印刷者兼　檜常之助

【内容】　一12同様に山岸本を基に出版された一番綴本で、版式も同一。『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』一七4㋺と同種であるが、訂正者の一人を「金剛鈴之助」とする点が異なる。全冊に朱で直シが加えられており、また本文行間・上下部余白に詳細な型を朱書する曲がある。他にも〈一角仙人〉〈元服曽我〉などには、題簽に「清水正徳先生四の枕手入」とあり、大鼓の手付を加える冊もある。清水正徳(一八五六～一九三七)は大鼓高安流の役者。

13㋺　明治三十一年檜常之助刊金剛流一番綴謡本「二人静」　半紙本一冊

【内容】　装丁・版式・内容等㋑と同一。但し訂正者の一人を「金剛右京」とする点のみ異なる。本書は鈴之助が右京と改めた明治四十三年八月以後に発売された分。

13㋩　明治三十一年檜常之助刊金剛流一番綴謡本　半紙本四冊

【曲目】　葛城　通小町　融　満仲

【内容】　装丁・版式・内容等㋑・㋺と同一。〈葛城〉のみ改訂者の一人を「金剛鈴之助」とする。〈葛城〉の題簽には「型附」と朱書されており、本文行間、上下部余白に型を付されている。他の三冊も同様であるが、〈通小町〉には表紙見返しに、〈融〉には最終丁に装束付が朱書されており、〈満仲〉は表紙見返しに装束付が墨書されている。

同様の型の記載は㋑・㋺にも見られるが、本書には直シがない点が異なり、楠川氏も紫色の紐で括り、別置していたので、それに従った。

14　明治三十八年檜常之助刊金剛流五十番綴謡本　中型横本二冊

内題：所収曲の曲目　外題：所収曲の曲目

原装鱗形空押模様布地青丹色表紙(一三・〇×一九・〇糎)。中央長形題簽に「金剛流謡本　内の上(下)」と墨書し、その横に青インクで「高安流大鼓手附は入」と加える。上巻冒頭に序を付し、各冊冒頭に目録を付す。片面十一行。各丁裏の本文最後に「高砂一」のように丁付。本文冒頭・末尾に楠川氏印あり。

【刊記】　明治卅一年四月十二日印刷／同年四月十九日發行／同卅八年十一年五月別製本御届／訂正者　金剛直喜／訂正者　今井幾三郎／京都市上京區二條通麸屋町／北東角拾二番戸／発行者印刷者檜常之助／(特電二千百九十番)

【内容】　今井幾三郎が詳細な節付をし、出版しようとしたものを家元鈴之助が販売・使用を禁止した本(出版に関わる事情は『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』一七6参照)。各曲内題の上に「曲名・配役・地・季」を刻した小さな紙を付してある。題簽にあるように大鼓の付が書入れられているが(青イ

Hosei University Repository

ンク)、それよりも型付の書入が多く、全丁にわたって朱書されている。

15　昭和四年〜十五年檜書店刊金剛流昭和版一番綴謡本　半紙本二十冊

内題：各冊の曲目　外題：各冊の曲目

原装九曜紋空押模様茶色表紙(二三・一×一六・四糎)。表紙中央上部長形刷題簽。一丁表に曲梗概、一丁裏に装束付を付す。

【曲目】　葵上　安宅　生田敦盛　岩船　景清　邯鄲　黒塚　猩々　是我意　蝉丸　竹生嶋　土蜘蛛　鶴亀　羽衣　橋弁慶　満仲　三輪　望月　盛久　夕顔　熊野　頼政

【内容】　〈生田敦盛・岩船・三輪・盛久〉以外は朱で直シ・型付・囃子手付などを書き込む(〈景清〉のみ鉛筆)。特に〈望月〉は題簽下部に「重習／禁他見」と書かれており、表紙見返しに装束付を朱書し、本文行間に詳細な型を付すなど、本組の中では最も書入が多い。

16㋑　昭和十七年檜書店刊金剛流新曲「世阿弥」　中本一冊

内題：世阿弥　外題：世阿弥金剛流新曲

原装九曜紋空押模様茶色表紙(二一・〇×一四・九糎)。表紙左肩に「金剛流新曲」の刷題簽。一丁目に川田順の序と梗概を付す。墨付十四丁。袋綴本。

【内容】　昭和期の新作曲。作者は建築家で〈恋塚〉の作者でもある竹腰健造。

16㋺　昭和十七年檜書店刊金剛流新曲「世阿弥」　中本一冊

原装薄香色表紙。表紙中央上部にイと同一の題簽。洋綴本。

【内容】　表紙・綴じ方以外の装丁・版式・内容はイと同一。

《特殊謡本》

17　大正御大典能記念謡本　半紙本一冊

内題：所収曲の曲目　外題：なし

上部に菊紋、中部から下部に水・雲・桜などを織り出した金襴表紙(二一・七×一五・〇糎)。大和綴された綴糸に紫太糸を使用。題簽なし。奥書なし。厚紙製箱入り。

【曲目】　翁　高砂　石橋

【内容】　大正四年十二月七・八日の大正天皇即位大典記念祝賀能に際して参観者のために用意された特製謡本。第一日目と第二冊目の二冊揃の内の第一日分。(『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』二三C—2参照)

二　部分謡

[写本]

《金春流》

1　元文四年伊達吉村写「乱曲うたひ本」　半紙本一冊

内題：所収曲の曲目　外題：乱曲うたひ本

Hosei University Repository

原装茶色表紙（二二・〇×一六・〇糎）。左肩金箔菱形模様入長形題簽。本文料紙は最上の斐紙を使用。本文前に目録を付す。墨付六十二丁。片面五行。直シなし。

【奥書】此乱曲之一帖者先年大蔵家／経業以家本書寫不残之所／家宅両度之類焼之砌焼失／畢依之此度改而全借用／寫之自章相共寫取者也／元文四年／朧月初三　羽林中郎将（花押）

【曲目】上宮太子　雪翁　松浦物狂　八景　悪源太　加茂物狂　嶋廻　隠岐院　丹衣　香椎　富士山　由良物狂　花筐

同後ノ曲　正尊　・字額　實方　玉とり　きんさんし　地主　飛鳥川　蘇武

【内容】奥書にある「羽林中郎将」は近衛中将のことであり、書写年から推測して仙台藩藩主伊達吉村と考えられる。上質の斐紙を使用しており、その点からも吉村架蔵本であったと考えられる。書体も美麗で、節・間拍子を含めて丁寧に書写されている。吉村は文治政治を進めた仙台藩中興の祖であり、諸芸にも明るかった。伊達藩主の中では、能に最も縁のあった藩主であり、右筆に書写させたものや自ら書写した謡本が現存し、本研究所にも数点所蔵されている。

2　元文五年大蔵経春写「乱曲」　枡型本一冊

内題：所収曲の曲目　外題：乱曲

綴帖装。原装。亀甲繋に桜空押模様茶色表紙。中央薄模様入長形題簽（一八・〇×二〇・五糎）。本文料紙は最上の斐紙を使用。本文前に目録を付す。墨付五十一丁。片面八行。

【奥書】右乱曲うたひ者／奥州公依／御望祖父仰通自筆　本以被為　写予ふし／附指上者也／干時元文五庚申歳　大蔵大夫／中呂廿八日　桑経春（花押）

【曲目】上宮太子　八景　松浦物狂　加茂物狂　隠岐院　母衣　悪源太　嶋廻　花筐　雪翁　須磨源氏　碁　舞車　蘇武　錦戸　玉取　由良物狂　地主　・字題　香椎　高野参詣　高野物狂　丹後物狂　砧　弓矢立合

【内容】美麗な装丁であり、奥書通り大蔵経春（宝暦十四年没）から奥州公へ送られたものであろう。「奥州公」は書写年代から推測して伊達吉村であると考えられる。節付は簡略で実際使用した本というよりは贈呈用であったのだろう。〈錦戸・碁・舞車・高野物狂〉など謡物としては変わった曲が所収されているのが特徴。

《金剛流》

3　昭和八年楠川正範写金剛流一番綴本「木曽願書」　小型横本一冊

内題：なし　外題：木曽願書

仮綴本（一三・五×一九・五糎）。表紙中央に「木曽願書」と墨書。本文料紙は楮紙。墨付二丁。片面九行。一丁表に「楠川」の印。

【奥書】表紙右上に「昭和八年一月／金剛宗家より御秘本を／拝借写す」とある。また本書を包む封筒にも「金剛右京先生古書写」とある。

Hosei University Repository

【内容】 直シなどはないが、本文と同じ手で上部余白に「金容ノ誤ナラン」といった詞章の訂正や、「陸奥の守」の部分に「国」と振り、頭注で「ミちの国なれバタンノ間、ミちのくの守なれバ平間」と加えるなど若干の書入れがある。

4㋑ 昭和十四年楠川正範写「木曽願書」 一枚

内題：なし 外題：なし

二〇・五×一三六糎（折本仕様）。本文冒頭上部に蔵書印あり。

【奥書】 昭和八年一月廿二日室町金剛能楽堂にて／柏崎相勤む節／金剛宗家より古書有借謹書之／石原環／二十三世右京先生也昭和十四年九月石原氏／所蔵を以て之ヲ写ス 正範

【内容】〈木曽〉の「願書」に朱や墨で囃子の手付を加えたもの。石原環については未詳。

4㋺ 昭和十四年石原環写「木曽願書」 半紙本一冊

内題：木曽願書 外題：奥傳木曽願書

仮綴本（二五・二×一六・七糎）。墨付三丁。

【奥書】 本文冒頭に「當流にハ（當謡も）能もなく装束付もなけれと、重き三讃物の奥傳なり。昭和八年一月下旬京都寺町今出川上ル宅ニテ廿三世右京先生ヨリ口傳」とあり、昭和十四年五月／原 玉城讃書」とある。

【内容】〈木曽願書〉の小謡。上部余白に謡い方についての説明が加えてあり、これが金剛右京による口伝らしい。奥書にある「原 玉城」は㋑に見える「石原環」と思われる。

5 昭和十五年清水生写「峯之姫松」 中型横本三冊（天・地・人）

内題：所収曲の曲目 外題：峯之姫松

原装白縁色表紙（一六・〇×二四・〇糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。天ノ巻目録には「金剛流謡囃子集目次」とあり、三冊分の曲目列挙。墨付［天］七十丁［地］八十丁［人］六十八丁 本文片面十一行。花紋入浅黄色角裂あり。

【奥書】 人の巻の最後に「紀元二千六百年当月／應楠川師之求／清水生書閒」とあり。

【曲目】〈天之巻〉 高砂 弓八幡 老松 放生川 難波 白楽天 道明寺 養老 西王母 志賀 鶴亀 淡路 富士山 賀茂 氷室 岩船 竹生島 嵐山 呉服 和布刈 右近 金札 田村 八島 實盛 巴 経政 敦盛 俊成忠度 生田 敦盛 籠 兼平 忠度 清経 通盛 知章 放下僧 自然居士 東岸居士 花月。〈地之巻〉 東北 江口 芭蕉 半蔀 采女 佛原 熊野 松風 井筒 野々宮 千手 楊貴妃 二人静 吉野静 源氏供養 双紙洗 夕顔 羽衣 胡蝶 藤六浦 杜若 誓願寺 葛城 雪 巻絹 龍田 三輪 雲林院 遊行柳 西行桜 小塩 雨月籠 籠太鼓 雲雀山 紅葉狩 船弁慶 花形見 桜川 柏崎 百万 三井寺 加茂物狂 浮船 玉葛 富士太鼓 梅枝 天鼓 唐船 枕慈童 邯鄲。〈人之巻〉 錦木 松虫 小袖曽我 芦刈 春栄 小督 盛久 安宅 七騎落 高野物狂 山姥 藤戸 阿漕 善知鳥 通

Hosei University Repository

小町　女郎花　舟橋　歌占　橋弁慶　土蜘蛛　鞍馬天狗　是界　車僧　野守　鵜飼　鉄輪　項羽　殺生石　鐘馗　国栖　昭君　熊坂　夜鳥　舎利　谷行　松山鏡　碇潜　船弁慶　春日龍神　融　海人　藤戸　当摩　須磨源氏　絃上　猩々。

【内容】　金剛流の囃子謡。「金剛流謡囃子集」という本を基に書写されたのかもしれないが、原本は未詳。大半の曲に型付が朱書されており、楠川氏自身の書入れと思われる。本書を書写した清水生については未詳だが、楠川氏の弟子にあたる人物かと思われる。

6　謡本書付・断簡　三十点

謡本・小謡本(写本・版本を含む)の断簡・書付・不完全な仮綴本などを一括する。すべて金剛流のもの。

【曲目】　実盛　鐘馗　外浜風　弓矢立合(型を朱書)　舎利　鵜飼　桜川　勧進帳　金札　小鍛冶(版本。型を朱書)　采女　鉢木　落葉　身延　飛鳥川　阿古屋松　卒塔婆流　博多物狂　松浦物狂　加茂物狂　高野物狂　一字題　曙　無声音　教訓　長谷　寅方　横山　道成寺(版本)　八嶋

[刊本]

《金春流》

7　江戸後期須原屋平助刊下懸囃謡　中型横本・一冊

内題：下懸囃謡　外題：題簽剥落

原装青色表紙(一三・〇×一八・五糎)。左肩の長形題簽剥落。本文料紙は楮紙使用。本文冒頭に目録を付す。墨付百四十七丁　片面十三行。版心下部に丁付。奥書なし。裏表紙見返りに「皆川氏」の署名と蔵書印あり。

【曲目】　○高砂　○弓八幡　○老松　○難波　○志賀　呉服　○東北　○芭蕉　○野宮　○江口　○采女　○楊貴妃　○井筒　定家　遊屋　忝風　千手　船弁慶　○班女　二人静　源氏供養　関寺小町　○夕顔　○半蔀　○佛原　○小塩　○杜若　○誓願寺　○羽衣　○雲林院　六浦　○西行桜　○遊行柳　三輪　龍田　巻絹　梅枝　富士太鼓　天鼓　邯鄲　唐船　百萬　柏崎　三井寺　桜川　玉葛　浮舟　芦刈　盛久　安宅　錦木　小督　松虫　自然居士　花月　放下僧　雨月　歌占　山姥　当麻　海士　融　春日龍神　六浦　○養老　猩々　紅葉狩　春栄　○白楽天　善知鳥　女郎花　清経　吉野静　小鍛冶　檜垣　木賊(以上七十六番)　[付]　式三番

【内容】　本書には奥書はないが、『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』一三9(享保元年九月須原屋平助刊『下懸囃謡』)と同版であり、同時期の出版と考えられる。鴻山文庫本と比べると「式三番」本文最後にある点や、その後に「笛のしやうかの事」「小鼓打様の事」「大鼓打様の事」「小鼓舞打様之事」「大鼓舞之事」「地頭之事」「カケリ頭之事」「大返シ之事」を加えている点が異なる。冒頭目録には「式三番」を加えて「七十七番」としているので(鴻山文庫本も同様)、本書の方が原型かもしれない。

表紙見返しに「〇印ハ京都金剛家「囃要集」ヨリ　寫セル

Hosei University Repository

物之／不足分　放生川／他見禁」とあり、目録に朱丸を付した曲（右曲目の○印を付した曲）には、型付などが朱書されている。また〈熊野〉と〈葛城（本書には所収されていない）〉は型付が書かれた薄紙が挟まれている。

《金剛流》

8　刊年刊者不明金剛流囃子謡集　小型横本一冊

内題：所収曲の曲目　外題：題簽剥落

石版印刷。原装布目地霞模様青丹色表紙（一八・二×一三・四糎）。左肩の題簽剥落。本文料紙は薄葉紙。本文前に目録を付す。墨付三百十八丁。片面十行。奥書なし。本文最後に「内上巻終了　以上五十番」の下に「くすかわ」の印あり。また最後の添紙裏に「楠川正範」と墨書されている。

【曲目】　山岸本内組1～10の五十曲所収

【内容】　背表紙に「内の上／五十番一」とあるので、本来二冊揃百番の本らしい。詞章は山岸本系と同一で、明治頃刊と推測される。数曲に囃子の手付が朱書されている。本書名は内容を踏まえて仮に付けたものである。

三　伝書

【写本】

1　書写年不明楠川正範写「能の秘事」　半紙本一冊

内題：なし　外題：能の秘事　全

原装鳥の子色表紙（二三・二×一六・五糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は薄葉紙。墨付三十五丁。各丁表左下に丁付。浅緑色角裂あり。外題と同じ小口書あり。本文前の添紙に「能の秘事」の墨書と、「金剛文庫」の印。本文一丁目に楠川氏の蔵書印。

【奥書】　下間少進法印／仲康書判／朱印

【内容】　下間少進『叢伝抄』の写で、奥書は本研究所蔵異本（書名『五音之能之心持事』）と同一。本書は確認し得た諸本と異同があり、例えば「能之道具之寸尺事」の最後に「はつひ」「ちやうけん」「おいかつら」を加え、「おいかつら」の絵を載せているのは本書のみ。本書は三2と同表紙で、本文も同じ手と認められるので、楠川氏自身が書写されたと考えられる。

2　昭和十一年楠川正範氏写「謡曲心得集」　半紙本一冊

内題：なし　外題：謡曲心得集　全

原装鳥の子色表紙（二三・二×一六・五糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は薄葉紙。墨付八十七丁。片面九行。浅緑色角裂あり。本文前に目録を三丁付す。各丁表左下に丁付。墨付八十七丁。片面九行。浅緑色角裂あり。外題と同じ小口書あり。

【奥書】　宝永三丙戌天正月十五日写之　田村直躬所持／昭和十一年盛夏／平松氏写本依リ写之／正範（印）

【内容】　謡を中心とした雑伝書。目次の項目は以下の通り。

序、口中開合並調子之事、女はかせ男はかせ、脇とシテと

Hosei University Repository

のこゝろえ、助音の事、ゐるははるはるハゐる、うたひつなく並もじ移り、たけくらへ並謡節の事、文字なまりふしなまり、十躰之條々、物狂にあまたの心有事、上り僧下り僧の事、大口きる僧きぬ僧、神楽有る能、クセにより謡鼓共ニ位変る事、四つのはやし物に笥とる事、面之大様類々、面打作之名、謳一番之始終、祝言といふ事、平調かへり、二段かへし並二重すハり、大かへし半かへし　謡に五つ有事、松風塩路かなとめ　定家後の出羽男はかせの事、白拍子の事、シテと脇とかけ合の事、武者上中下三重之事、礼脇並翁なしの脇の事、開口脇之事、一ちやう並一調一管之事、ゆうのさまくの習、三つの相應と申習の事、音曲の二字の事、序の二字終りの二字、蘭曲と申事、くり之打かけの事、おくりとめの事、さしにのるのらぬと云事、能組之事、観家の能舞のこと、途中よりのる和哥之事、関寺曲舞五音ある事、當り難儀の所、打切打上等の事、大かへし謡やうの秘傳、三世十方の習、ヤ・ヤア等間の事、二つゆりの事語の事、立曲居曲並外クセ之事

底本となった本は不明だが、『実鑑抄』系・『八帖花伝書』系と類似した記事が多く、広く流布した諸説を練めて編纂されたものだと考えられ、原本が宝永頃の成立と考えても問題はない。概して実際の演能に際して有益な説明が多いので、初学者のための伝書であったか、備忘録的に使用されていた本であったと考えられる。

3　昭和十一年楠川正範写「藻しほ艸」　半紙本一冊

内題：藻しほ艸　外題：藻しほ艸

原装薄茶色表紙（二五・五×一八・二糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。目録六丁の後に序あり。各丁表に丁付あり。墨付五十七丁。「藻しほ草」の小口書あり。濃緑色角裂あり。

【奥書】　三月右此　安政七申年三月右此藻塩草ト聞書ヲ名付下村弥太郎　写置之のを拙者取戸諸之節写之置之　源常□（花押）　松原常吉　昭和元年四月初五筆耕ヲ請ヒ梅津正保氏残本ヲ以テ野々村蘆舟写置ル、ヲ二冊写之内一冊ハ三宅襄氏之ヲ残ス　昭和十一年八月吉日　楠川正範（印）

【内容】　演能に際しての口伝を集めて雑伝書で、喜多流のものと目される。中心となるのは、各曲ごとに示した演出事項で、演じる上での諸注意や装束の説明など内容は多岐に渡る。序によると流派の秘伝を伝えるよりも、著者の父親が常日頃から口にしていた教えを集めてものらしい。なお奥書に見える下村弥太郎は江戸後期喜多流の役者、梅津正保は明治～昭和期の喜多流の役者（一九三二年没）、野々村蘆舟は野々村戒三氏の筆名。

4　昭和十八年長岡淳子写「筐秘集」　半紙本一冊

内題：筐秘集　外題：筐秘集

原装布目地浅黄色表紙（二五・二×一八・一糎）。左肩長形題簽。本文料紙は薄葉紙使用。冒頭に目録と付す。墨付百四十

Hosei University Repository

四丁。各丁表左下に丁付。茶色角裂あり(下部破損)。

【奥書】 此筐秘集は野村家傳書写本に依り／長岡淳子嬢に依頼し謄写せしもの也／嬢たま〳〵病をおして是を完成す／修正は小林静雄氏の好意に依る／昭和十八年八月　楠川正範

【内容】 全体が四つの伝書から成っている金剛流の雑伝書。①は本書書名にもなっている「筐秘集」で、翁などを陰陽説・神道説に拠り説明したもの。本部分の最後に次の奥書を付す。

天地并発句季音声耳に有是に應対して遊／を舞といふ我朝忠四流中にも金剛の一家無師／無流秋句梨音の感し声に随ふて無終前代／の曲師と成此流家秘事を傳授して家の規矩／書集猶亦兼攷の要々を書添人の不知を以て／筐秘集と／稱美する／ものなり

②は冒頭に猿楽起源説などを加えた各曲ごとの伝書で、内容は風体・装束・舞事・働事・他流との差異など多岐に渡る。六十二曲所収。

③は各曲ごとの伝書の後に、囃子事・五音など諸説を加える。所収曲は②に比べて重い習いが多い。十曲所収。本部分の最後に次の奥書を付す。

于時享保八年癸卯七月日／野村輝正(花押)／(丁を変える)／右此書為者金剛一流之家傳野村氏之秘章也／粗亦愚親竊所稽之加一件使撰集之以金／櫃之為摘要而已／皆元文五庚申季／夷則初六年／野村輝政次男／同性保道

④は特殊演出に関する秘事。江戸後期に実際に演じられた年月日が記述されている箇所もある。

5　書写年不明「能楽聞書」　中型横本一冊

内題：能楽聞書　外題：能楽聞書

原装薄茶色表紙(二二・五×一九・八糎)。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。冒頭に目録を付す。各丁表左下に丁付。墨付六十四丁。添紙と本文一丁目に楠川氏の蔵書印あり。「能楽聞書　全」の小口書あり。濃緑色角裂あり。

【奥書】 本文一丁目に「時は弘化三丙午年五月　永井」。

【内容】 金剛流と思われる雑伝書。記述は舞事を中心とした演出注記が殆どである。曲により動き方を示した図や舞台図を入れ、具体的に記述されている。内容からは弘化頃の成立と考えてもおかしくはないが、書名に「能楽」を用いているので、書写・編纂されたのは明治以降で、装丁などから楠川氏によるものと推測される。

6　書写年不明楠川正範写「三地廼枝乎利」　半紙本一冊

内題：三地廼枝乎利　外題：なし

原装薄茶色表紙(二五・八×一八・〇糎)。題簽なし。本文料紙は楮紙。冒頭に目録を付す。全丁表左下に丁付。墨付四十一丁。「道のしほり」と小口書あり。濃緑色角裂あり。本文二十丁目に「金剛氏善著述／美知能志遠理(蔵書印)」とある。

【奥書】 本書は本来二つの書から成っていたと思われ、二箇所に奥書がある。

Hosei University Repository

《十八丁裏》
右者明治十二年正謡改定之万分之卜雖モ／父常ニ教之詞ニモ載聊ニテカ愚意ヲモ添ヘ／テジドウノ示傳ニモ成ヘキ者卜書誌シ置矣／ならすへ得てかきあつめたる藻塩艸／いかふと人のとはゝとふまて／明治十二年三月五日　金剛氏善述　改之
同　直善述
《最終丁》
維新明治十二年三月五日　金剛氏善謹書／金剛厳写之

【内容】　翁関連・起源説・演出事項作り物や小道具について・金剛座の歴史など様々なものを集めた雑伝書。奥書などから推測して、原本は氏善の著述と考えられるが、金剛厳が後年書写したものと思われる。全体は一筆であり、本の装丁が楠川氏書写本と同一なので、楠川氏が厳書写本を写したと考えるべきであろう。なお目録後に以下の序がある。

右者明治元年復古改正スル處ノ翁式ナリ当流ニ於テ古来神道ノ翁真言ノ翁ト一子ニ体の相傳ナリ依之再ヒ正謡改定ス行者慎而可勤左ニ皆／悉秘訣ヲ書誌畢　維書明治十二年三月吉日／金剛氏善

7　書写年不明「従唄一調記」　半紙本一冊

内題：なし　外題：従唄一調記
原装白緑色表紙（二一・一×一六・二糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。墨付九丁。添紙と本文一丁目に楠川氏蔵書印あり。白地角裂あり。

【奥書】　右此書者金剛代々為秘事一子外　不教之従父勝長口傳通記者也／尤可秘々／元禄十四辛巳七月下旬　金剛太夫久明（花押）　享保五年子二月吉日／金剛太夫久則（花押）　野村八郎兵衛殿／同八太郎殿

【内容】　囃子事に関する秘伝書。三4同様に、楠川氏が野村家伝来の書物を書写したものと考えられる。項目は以下の通り。

従唄一調之事　一挺一管唄之事　一調聲の事　土車打切
従唄一調鼓書付

8　書写年不明伝書写し二種　三枚

内題：なし　外題：なし
四九・六×一七・五糎（二つ折）。

【内容】　「宗筠ノ袖之下」巻ノ中ニ」と「心要浅深集ノ中ニ」の二書の写しからなる。前者は「宗筠袖下」の「桑氏ノ事ハ…」の一条の写し。後者は原典不明。内容は「心」の大事を解く一条、我を捨てて習う大事を説く一条、「花」の譬えと和歌七首を含む一節から成る。

9　書写年不明能伝書写し　三枚

薄葉紙使用。

【内容】　楠川氏自身が書写したと思われる伝書の断簡で、二種類からなる。一つは禅竹の『五音十体』の十体説の写しである。記述の仕方から推測して、『叢伝抄』からの写しのよ

Hosei University Repository

うである。もう一つは出典不明の記事であり、「酒淫の二つをつつしみ身を強クして世事を深く心にとめす朝先餅を一つ焼て食しふ段の飯ハ過ぬ程たらぬ程したゝめからき物を禁し…」のように能役者の日常の心構えや稽古論を纏めた一条である。

10　書写年不明実鑑抄系伝書写し　八枚

青野線入用紙。墨付六枚、和装にホッチキス留め。

【内容】実鑑抄系と思われる伝書の写し。冒頭に「十体の大略」として「祝言・幽玄の心・恋慕の心・哀傷の心・神祇の心・釈教の心・無常の心・述懐の心・田夫野人の心・五常の心」を各体の解説付で挙げる。内容は浅井本『実鑑抄』にある「十躰之事」をまとめたものであり、浅井本にある和歌などは本書には挙げられていない。他は宮増弥左門道歌(鴻山文庫「宮増鼓道歌」所収)や世阿弥仮託の道歌などを挙げるほか、謡・囃子の記事が若干加えられている。

11　書写年不明雑伝書写し　十八枚

二種類の楮紙使用。虫食いが激しく、一部焼失。

【内容】江戸期に流布した伝書し様々な伝書の写しで、どの系統のものかは判断できない。虫食い・焼け跡などがあり、甚だ状態が悪い。内容は主なものを挙げると、作之面之事・諸流の字の当て方・謡・クセの字の当て方・三段の次第について・脇能について・遠近の拍子の事・十二調子・時の調子・翁について・舞台図及び寸法などがある。

四　付

〔能〕

［写本］

《観世流》

1　明治四十二年写「能辯惑大全」　大本五冊

内題：能辯惑大全(一巻～五巻)　外題：能辯惑大全

原装白緑色表紙(二七・四×一九・七糎)。中央金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。片面十一行。全冊各丁表左下に丁付あり。墨付［一巻］六十一丁　［二巻］三十八丁　［三巻］四十丁　［四巻］四十一丁　［五巻］二十八丁。　一巻に序(元文五年　橘泉堂)・総目録、各巻に目録を付す。全冊添紙と本文一丁目に楠川氏蔵書印あり。各冊「能辯惑大全(一～五)」の小口書あり。薄紺色角裂あり。

【奥書】

［一巻］　大友信安書之

［二巻］　なし

［三巻］　明治四十貳年二月寫之／大友信安

［四巻］　(本文末)右此百番者本文之ために仮に／鏤區別ハ師に随て出入翫ひ給ハ、／本懐ならむ　(巻末)明治四十貳年一月寫之／大友信安

［五巻］　撰述　高田平七／元文五年庚申冬／能辯惑大全巻

Hosei University Repository

之五終

【内容】元文五年刊『能樂惑大全』の忠実な写し。本書は観世流の仕舞付で、百十二曲の型付から成り、五巻末に仕舞秘伝を付す。奥書には大友信安（明治・大正期のワキ高安流の役者）が書写したことが記されているが、本の装丁が楠川氏書写本と同一なので、楠川氏が大友書写本を写した可能性が高い。

《金春流》

2　書写年不明「流外仕舞付」　小型横本・一冊

内題：流外仕舞付　外題：流外仕舞付

原装水色表紙（一〇・七×一六・六糎）。左肩長形題簽。本文料紙は薄葉紙。冒頭に目録を付す。各丁表左上に丁付。墨付五十七丁。奥書なし。

【曲目】御裳濯　吉野　碇潜　初雪　哥占　鶏龍田　壇風　愛染川　唐船　現在鵺　籠祇王　張良　羅生門　蟻通　氷室　頼政　敦盛　半蔀　梅枝　鞍馬天狗　紘上　小鍛冶　春栄　鉢木　阿漕

【内容】〈歌占〉に「竹田安得」、〈半蔀〉に「安住」の名が見えるので金春流の仕舞付と思われる。江戸末期～明治初期の書写と考えられる。

《金剛流》

3　大正十年吾有斎写「金剛流仕舞」　小型横本・一冊

内題：金剛流仕舞　外題：金剛流仕舞

原装白緑色表紙（一・・五×一五・七糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は薄葉紙。冒頭に目録を付す。片面七行。各丁表左下に丁付。墨付八十二丁。緑色角裂あり。

【曲目】高砂　鶴亀　西王母　猩々　田村　八島　竹生島　敦盛　経政　俊成忠度　籠　杜若　羽衣　熊野　松風　東北　玉葛　蝉丸　網之段（桜川）　善知鳥　鐵輪　阿漕　黒塚　女郎花　野守　歌占　葵上　紅葉狩　山姥　放下僧　笠ノ段（菅刈）　玉ノ段（海人）　融　邯鄲　天鼓　舟橋　殺生石　昭君　安宅　是我意　籠太鼓

【奥書】大正十年初夏　吾有斎書（印）

【内容】各曲のみを記載しており、型などの書入はなし。目録の次に舞台図を載せる。

4　昭和十六年楠川正範写「鷺ノ象附傳書」　中型横本・一冊

内題：なし　外題：鷺ノ象附傳書

仮綴本（一・九・六×一七・四糎）。本文料紙は薄葉紙使用。

【奥書】此形付ハ明治八年中相勤タル處　書写シ候也　明治十二年十一月三日　金剛泰一郎　高村殿　昭和十六年盛夏写　正範

【内容】〈鷺〉の舞事の唱歌・仕舞付、諸役、装束付を纏めたもの。

5　書写年不明「奥習　囃子形附」　中型横本二冊（天・地）

Hosei University Repository

内題：なし　外題：奥習　囃子形附
原装白緑色表紙（一三・四×一九・六糎）。中央金箔散らし長形題簽。墨付「天」二十二丁［地］四丁。奥書なし。各冊添紙に楠川氏蔵書印あり。
【曲目】［天の巻］頼政　定家　砧　卒都婆小町　［地の巻］梅
【内容】詞章の一節を墨書し、その下に型を朱書する仕舞付。金剛流のものと思われる。昭和初期の書写と思われる。

6　書写年不明楠川正範写「楽　型付」　小型横本一冊
内題：楽型附　笛森田流（一丁目）　楽型附　笛一噌流（五丁目）
外題：金剛流楽型付／森田流相手／一噌流相手
仮綴本（八・一×一一・二糎）。本文料紙は薄葉紙。はじめ四丁分のみ表右下に丁付あり。墨付九丁
【内容】笛の唱歌に金剛流の型を朱書し、加えたもの。本文縦書き。前半四丁が森田流、後半五丁が一噌流。

7　書写年不明長沢署名〈大蛇〉型付　中型横本一冊
内題：大蛇　外題：なし（表紙なし）
仮綴本一五・四×一九・一糎）。本文料紙は楮紙使用。墨付四丁。奥書なし。一丁目右下に「武澤」の署名。
【内容】墨書された〈大蛇〉の詞章の横に型を朱書したもの。流派ははっきりしないが、金剛流のものと思われる。

8　楠川正範筆「砧　仕舞手附」　十四枚（ホッチキスどめ）
青罫線入メモ用紙
【内容】〈砧〉の謡をペン写し、その間に型を朱書したもの。

9　仕舞付書付・断簡　三十九点
仕舞付の書付などを一括する。大方金剛流のものと思われ、実際舞台で演じられた時の日付などを付すものも多い。
【内容】小鍛冶（金剛白頭　昭和十一年七月　橋本熊三郎附）小鍛冶（白頭　若葉会右京先生）　高砂（昭和十五年二月三日　金剛会）　芦刈　頼政（藤井記入、観世型と思われる）　頼政（昭和十八年九月廿四日　大阪朝日主催五流能ニテ勤メシ型）　実盛（昭和廿一年五月）　経政（昭和二十一年六月　京都型）　朝長（昭和二十一年六月　京都型）　西王母　花月　安宅　放下僧　卒都婆小町（舞囃子　観世流）　卒都婆小町（舞囃子　昭和四十一年十月　観世流）　石橋（狻猊之式狻獅子ノ型）　高砂　錦木　小鍛冶（白頭。昭和二十一年室町型〈十月五日金剛茁々会の時の型だと思われる〉）　加茂（替装束）　玉葛　羽衣（合）　翔（組落）　羽衣（和合）　翔（組落）　善知鳥（カケリ入）　砧（囃子）　景清　砧　熊坂　葵上　芦刈　敦盛　弱法師　清経（ツレ）　木曽　天鼓　三段ノ舞　井筒　古比之舞　殺生石（女体　金剛右京附）。

《脇方高安流》

10　書写年不明「高安脇　鶯永集」　中型横本二冊

Hosei University Repository

内題：（上巻）鶯永集　（下巻）鶯永　外題：高安脇　鶯永集
原装白緑色表紙（一三・四×一九・八糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。各巻冒頭に目録あり。片面十五行。各丁表左下に丁付。墨付［上巻］八十一丁　［下巻］八十一丁。各冊添紙と本文一丁目に楠川氏の蔵書印がある。各巻「鶯永集」の小口書あり。各冊角裂あり。

【奥書】［上巻］凡藝者家々之以流儀為要也余自童歳遊高安門而重日積耳以學家傳之藝頗習得其奥儀也故委書於其家法曲調之藝術而以為三巻題之号鶯永傳也有實好以伎藝者則欲分明傳之而耳　［下巻］井桐軒後藤氏良忠

【曲目】［上巻］高砂　難波　弓八幡　老松　賀茂　竹生嶋　白髭　呉服　嵐山　氷室　放生川　養老　大社　金札　白楽天　西王母　田村　八嶋　箙　忠則　頼政　兼平　朝長　道盛　實盛　敦盛　恒政　知章　東北　芭蕉　江口　野々宮　井筒　定家　松風　湯谷　千住　夕顔　半部　采女　佛原　六浦　誓願寺　姨捨　檜垣　浮舟　玉葛　通小町　卒都婆　班女　二人静　吉野静　雲雀山　花匡　百万　三井寺　桜川　梅枝　富士太鼓　源氏供養　小原御幸　羽衣　杜若　葛城　三輪　龍田　遊行柳　西行櫻　雲林院　小塩　天鼓　邯鄲　唐船　雨月　木賊　烏頭　藤戸　籠太鼓　阿漕　鵜飼　女郎花　花月　東岸居士　放下僧　野守　舟橋　芦刈　安宅　盛久　小督　景清　山姥　錦木　松虫　海士　融　當麻　絃上　俊寛　歌占　大仏供養　道明寺　国栖　鐘馗　殺生石　鞍馬天狗　是界　車僧　大会　春日龍神　熊坂　舎利　夜烏　項羽　月宮殿　猩々　祝言　当流心得　［下巻］（三之巻）和布刈　玉井　皇帝　感陽宮　楊貴妃　関寺小町　鸚鵡小町　柏崎　角田川　自然居士　鉄輪　藤榮　鉢木　七騎落　船弁慶　禅師曽我　飛雲　大江山　攝待　（仝）蟻通　春榮　松山鏡　現在鶴　小鍛冶　烏追船　雷電　調伏曽我　谷行　黒塚　葵上　紅葉狩　土蜘　望月　石橋　（鶯永終同追加）

醴脇　音取　置鼓　愛染川　羅生門　壇風　道成寺　張良　乱

【内容】脇方高安流の仕舞付。書写年不明であるが、原本は江戸後期頃の成立と考えられる。本書下巻は鴻山文庫蔵『鶯永花傳集』（付七二）の内、三巻（内追加巻分を除く）・仝と同文庫蔵『鶯永集』（付一四七）の三冊をまとめた内容とほぼ同一である。『鶯永集』の巻末にある位付も同一であり、高安家系図は朱で加えられている（朱は楠川氏の手と思われる）。本書上巻に対応する本は鴻山文庫にはないが、下巻の目録に「三之巻」とあるので、これに対応する一、二巻をまとめたものと思われる。表紙は前本と同一であるので、二冊に整えたのは楠川氏であろう。

［刊本］

《宝生流》

11　昭和三年わんや書店刊「宝生流仕舞正本（型附篇・奥書）」　中型横本一冊

Hosei University Repository

内題：なし（破損）　外題：宝生流仕舞正本
原装宝字及び五雲空押模様浅黄色表紙（一九・九×一八・七糎）。中央長形題簽。扉及び目次の一部が破損。片面十行。百五十頁。
【内容】　昭和三年にわんや書店刊行された宝生流の仕舞付集。

〔笛〕
〔写本〕
《森田流》

12　天明六年青地茂左衛門写森田流「笛譜」　中型横本一冊
内題：なし　外題：（打付）笛譜森田流
原装刷毛目模様肌色表紙（一四・〇×二一・一糎）。題簽なし。左肩に「笛譜　森田流」と墨書。本文料紙は楮紙。墨付二十三丁。
【奥書】　［十六丁裏（狂言の部の最後）］右之一番森田流従石井平三郎／全相傳記之置者也／天明六丙年卯月中旬改之
［最終丁］　右弐三番者森田流之為／秘事従粟津何某全傳／受記之者也／天明六丙年卯月中旬／青地茂左衛門／生政（花押）
【内容】　森田流の笛唱歌集。一部鼓の手付を朱書する。　十六丁裏の奥書に見える「石井平三郎」は京都在住の石井流笛方で、宝暦十二年刊『能訓蒙図彙』「京阪分」に名が見える人物である。「青地茂左衛門」（延享二年（一七四五）～文化二年（一八〇五））は笛を森田流石井平三郎、狂言を山脇和泉、謡を速水六郎兵衛円齋に学んだ。素人ながら、謡・狂言・囃子の伝授を受けており、青地書写本としては狂言関係資料（野村又三郎家蔵）、『謡秘事哥袋』（伊藤正義氏蔵、翻刻解題が『磯馴帖松風篇』（和泉書院二〇〇二年）にあり）が伝存する。青地の詳細については『磯馴帖』解題参照。

本書の項目は以下の通り。　調　高音　中ノ高音　ヒシク高音　六ノ下　カスミノ呂　キリ　上羽ノ高音　ヒシク上羽　カツラノ六ノ下　呂　物着　カトマモリ　真乱序　大ヘシミ　カケリ　渡リ拍子　破ノ舞　猩々ノ舞　序ノ舞　中ノ舞　男舞　神ノ舞　楽　神楽　カツコ　早舞　［狂言アイシライ之部］（シヤキリ　拝　カツコ　カケリ　カク　カクラ　末社舞　早笛　猩）　式三番　半着　八調之ユリ　千歳初段高音之ユリ　同後段舞草ノ高音之ユリ　夫婦之乎　真言之乎　草真言之乎　呂　翁舞　悦之乎　揉出し　揉之段　乎　長キ乎　短キ乎　袖掛　二日目揉出　三日目同　終之段序　乎　ユリ合　トメ

13　書写年不明森田流笛唱歌集　中本一冊
内題：なし　外題：なし
仮綴本（二一・五×一四・二糎）。本文料紙は楮紙使用。墨付十二丁。奥書なし。
【内容】　森田流ものと思われる笛唱歌集。序ノ舞・中ノ舞・楽・男舞・神楽・渡リ拍子を所収。

14　書写年不明楠川正範氏写森田流獅子唱歌　中型横本一冊

Hosei University Repository

内題：なし　外題：森田流獅子唱歌
仮綴本(一四・五×二〇・五糎)。本文料紙は楮紙八割符使用。各丁表左下に丁付。墨付七丁。奥書なし。
【内容】「望月獅子」「獅子乱序」「大獅子」の唱歌を八割符に書いたもの。楠川氏筆と思われる。

15　書写年不明楠川正範写「森田流唱謌」　大本一冊
内題：森田流唱謌　外題：唱謌
仮綴本(二七・八×一九・九糎)。本文料紙は楮紙使用。墨付十二丁。奥書なし。
【内容】序之舞・中之舞・男舞・神舞・盤渉調・早舞の森田流唱歌を墨書したもの。朱で舞の型を若干書き入れる。楠川氏筆。

16　書写年不明楠川正範写森田流「盤渉楽」　中型横本一冊
内題：笛森田流　盤渉楽古井付　外題：なし(破損)
一三・五×一九・六糎。表紙は完全に剥落。本文料紙は楮紙使用。墨付八丁。奥書なし
【内容】表紙は破損しているが、三17と同装丁だったと思われる笛唱歌。八割譜に唱歌のみを墨書している。本書も楠川氏が書写したものであろう。

《一噌流》

17　書写年不明楠川正範写一噌流「盤渉楽」　中型横本一冊
内題：笛一噌流／盤渉楽　外題：盤渉楽
原装白緑色表紙(一三・五×一九・六糎)。中央金箔入長形題簽。本文料紙は楮紙。墨付六丁。奥書なし。添紙に楠川氏蔵書印あり。
【内容】㋑と装丁・記述の仕方が同一の一噌流盤渉楽の唱歌。㋑と同時期に楠川氏が書写したものだろう。

《諸流混合》

18　書写年不明楠川正範写「金剛流舞もの」　中型横本一冊
内題：なし　外題：金剛流舞もの　全
原装布目地茶色表紙(一三・〇×一九・三糎)。左肩金箔入長形題簽。本文料紙は楮紙使用。目録を二丁付す。各丁表左下に丁付。墨付六十七丁。奥書なし。添紙に楠川氏蔵書印あり。薄緑地角裂あり。
【内容】笛の唱歌集。唱歌を墨書した横に型などを朱書している箇所が多い。また神楽の箇所には幣吊の作り方・持ち方を記した紙を挟み、獅子(石橋)の箇所には台の図と配置を記すなど、演出事項の記述もある。装丁から、楠川氏が書写・製本したものと思われる。項目は以下の通り。
序之舞(太鼓)　序之舞(大小)序之舞(囃子ノ部)　紅葉狩(乱之序)　序之舞のヲロシ　真之序　破懸中之舞　太鼓中之舞　中之舞(囃子の節)　松風彩掛中之舞　松風破之舞　熊野中之舞　男舞　安宅山伏掛　神舞　黄鐘早舞　盤早渉　早舞　早舞窕　段窕　早舞順位　天女之舞　天女舞石近呉

Hosei University Repository

服五段　舞働　龍神舞働　舞働二段　国栖下端三段舞　破懸鞨鼓　段掛鞨鼓　楽（森田）　全（一噌）　冨士太鼓　邯鄲（掛り）　全（空段）　森田笛神楽（地直り（能））　全神楽（段直り（囃子））　破之舞　野宮破之舞　蟬丸琵琶之会釈　清経恋の音取　盤渉楽（森田）　全（一噌）　五段神楽　羽衣盤渉　乱（森田）　全（一噌）　獅子　狻猊之式　望月獅子　イロヱ　カケリ　早笛　大癋

19　**昭和四十四年楠川正範写「神楽」**　中型横本一冊

内題：〔二丁目〕笛一噌流／神楽　〔十丁目〕笛森田流／神楽

外題：神楽

原装白緑色表紙（一三・五×一九・六糎）。中央金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。墨付十九丁。添紙に楠川氏蔵書印あり。薄緑地角裂あり。

【奥書】　昭和四十四年如月／正範

【内容】　八割譜に唱歌を墨書し、その横に囃子付や仕舞付を朱書したもの。

〔刊本〕

《一噌流》

20　**昭和十五年一樹会刊「一噌流笛頭附」**　中型横本一冊

内題：一噌流笛頭附　外題：一噌流笛頭附

原装布地千草色表紙（一二・八×一九・四糎）。中央長形題簽。扉と本文一丁目に楠川氏蔵書印あり。「一噌流笛頭附　全」の小口書あり。紙包入り。

【内容】　能百六十九番、狂言六十番所収。

21　**昭和十五年一樹会刊「一噌流笛指附集」**　半紙本一冊

内題：一噌流笛指附集　外題：一噌流笛頭附

原装布地千草色表紙（二五・〇×一七・一糎）。中央長形題簽。扉と本文一丁目に楠川氏蔵書印あり。「一噌流笛指附　全」の小口書あり。紙包入り。

【内容】　出事・舞事を中心に纏めた指付集。前本と同じ表紙。

〔大鼓〕

〔写本〕

《高安流》

22　**書写年不明「高安流大鼓手附」**　袖珍本一冊

内題：なし　外題：高安流大鼓手附

原装栗皮色表紙（一一・六×八・〇糎）。中央長形題簽。目録二丁付す。各丁表左下に丁付。墨付四十八丁。奥書なし。添紙に楠川氏蔵書印あり。

【内容】　大鼓高安流の出事・舞事・働事に関する手付・伝書。楠川氏筆。内容は以下の通り。

手之種類　次第　一聲　半越、頭越、葛越　狂女越　五段越　真之一聲　物着、イロエ　立頭　翔り　中之舞（大小）　全イロエ掛り　序之舞（大小）　男舞　カツ鼓　楽（大小）　出端　脇能七五三出端　祈り　ノット　下り

Hosei University Repository

端　中ノ舞（太コ）　神舞　盤渉早舞　全イロエ掛り　舞働　早笛　大べしみ　神楽　楽（大鼓）　郡郡空下り　五段神楽　手配（楽・神楽・真之一聲）

23　**書写年不明楠川正範写「高安流大鼓手附」**　小型横本一冊

内題：なし　外題：高安流大鼓手附

原装白緑色表紙（九・四×一三・五糎）。中央金箔散らし長形題簽。本文料紙は薄葉紙。目次二丁を付す。各丁表左下に丁付。墨付五十丁。奥書なし。添紙に楠川氏蔵書印あり。薄緑地角裂あり。帙風の厚紙に四28と同置。

【内容】　前書とほぼ同構成の高安流手付・伝書。「脇能七五三之出端」の後に「同五三二之出端」が入る点と、最後に一噂笛譜・森田笛譜を付す点のみが異なる。楠川氏筆。

《流派不明》

24　**書写年不明「夜鳥囃子」**　半紙本一冊

内題：夜鳥囃子　外題：褐金剛流囃子

仮綴本（二四・七×一六・九糎）。本文料紙は楮紙使用。各丁表左下に丁付。墨付六丁。奥書なし。

【内容】　〈褐〉前場「サシ」「クセ」以降の詞章に、朱で囃子の手付などを書き入れる。鼓・太鼓の付が混在する。流派は不明。

〔小鼓〕

〔写本〕

《幸流》

25㋑　**大正頃写「起請文」五種**　五枚

【内容】　大正頃に書写された「起請文」五種。各枚の内容は以下の通り

①内題：正尊起請文。本文前に「大正十三年十一月巌先生ニ承ル分」とある。小鼓の手付を朱書してある。

②内題：起請文。本文前に「大正十五年四月山上氏の控を写す／幸流家之手附　金剛流」と朱書。本文に小鼓の手付が朱書してある。本文無章句。

③内題：正尊起請文。奥書・年記なし。本文に小鼓手付が朱書してある。上部余白に「起請文口傳／富士浅間迄序夫ヨリ／破打切後／急／此事偽りト／元ノ位ニ戻り／跡ドツシリト／謡」と朱書してある。

④内題：正尊起請文。奥書・年記なし。本文に小鼓手付が朱書してある。

⑤内題：なし。「王城の鎮守…」の一節に小鼓の手付を加えた短冊。冒頭に「谷口幸次郎氏」と墨書。「谷口幸次郎」は大鼓石井流・谷口幸治郎（一八九三～一九四七年）のことであろう。

26㋺　**昭和十五年楠川正範写「正尊起請文」小鼓手付**　一冊

内題：なし　外題：なし

Hosei University Repository

写本。赤罫線入原稿用紙使用。

【内容】「起請文」の一部に小鼓の手付を朱書したメモ書き。本書の封筒に「昭和十五年二月／石原氏蔵書ニ依ル也」とある。

27　書写年不明「小鼓手附大成」　中型横本五冊

内題：小鼓手附大成　外題：小鼓手附大成

原装牡丹唐草模様布地緑表紙（一三・三×一八・九糎）。中央長形題簽。本文料紙は楮紙使用。全冊各丁表左下に丁付。墨付［一］五十三丁［二］六十八丁［三］八十五丁［四］七十五丁［五］七十丁。「小鼓（一～五）」の小口書あり。奥書なし。全冊添紙に楠川氏蔵書印あり。表紙と同布地の角裂あり。帙入（幸流小鼓手附大成」と墨書された題簽付。内側に「古洞舘蔵（「古洞舘蔵書印）」とあり）。

【内容】昭和三年吉田謡曲書店刊『改訂小鼓手附大成』（全八冊）の写し。忠実な写しではなく、一部抜粋して五冊にまとめたもの。内容は拍子箋に幸流小鼓の手を朱書し、謡・その他の手を墨書したもの。

《流派不明》

28　書写年不明楠川正範写「秘録」　小型横本一冊

内題：なし　外題：秘録

原装薄鼠色表紙（八・六×一九・七糎）。金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。目録二丁付す。墨付五十八丁。奥書なし。添紙に楠川氏の蔵書印あり。

【内容】囃子（鼓・太鼓が中心）の秘事をまとめた書付。朱で手付・頭付を付す。楠川氏が書写・製本したもの。

29　明治二十二年金剛氏慧鐘「小つゝみ手つけ」　小型横本一冊

内題：なし　外題：こつゝみつけ

仮綴本（一二・二×一六・一糎）。本文料紙は楮紙。一丁目録を付す。墨付二十一丁。裏表紙に「岡田蔵書」の蔵書印

【曲目】雲林院　百萬　柏崎　江口　班女　一人静　花がたみ　三井寺　桜川　窄太鼓　東岸居士　女郎花　松むし　放下僧（小うた）

【奥書】表紙に「明治己丑孟夏於樫窓摟書（印）／小つゝみ手つけ／金剛氏慧（印）」とあり

【内容】謡の横にごく簡単な手のみを朱書した流派不明の手附。

［刊本］

《幸清流》

30　昭和八年幸清會刊「幸清流手附本」　中型横本四冊

内題：なし　外題：幸清流手附本

布地薄茶色表紙（一三・五×一八・九糎）。中央長形題簽。全冊「幸清小鼓（一～四）」の小口書あり。全冊扉に楠川氏蔵書印あり。

Hosei University Repository

【内容】　幸清会発行の簡易な小鼓手附集。

〔太鼓〕

〔写本〕

《金春流》

31　書写年不明楠川正範写「金春流太鼓手附　序之巻」　半紙本一冊

内題：なし　外題：金春流太鼓手附　序之巻

原装水玉模様入青表紙（二二・六×一五・九糎）。中央長形題簽。本文料紙は楮紙使用。添紙に楠川氏蔵書印あり。序・目次を付す。各丁表左下に丁付。墨付五十二丁。　奥書なし。薄緑地角裂あり。

【内容】　大正十二年金春林太郎の序があり、同年に、わんや書店から出版された本の写しであると推測される。八割符の罫線入り用紙を用いて、各手付を説明したもの。楠川氏が書写・製本したものだと思われる。項目は以下の通り。　聲ノ掛方　撥の當方　頭之類　ヲロシ之類　刻之類　コイ合之類　打切並ニ打込之類　雑類　打出物之類　舞物ノ手之類其他　手附実例（西王母　猩々　羽衣　胡蝶　熊坂）

32　書写年不明楠川正範写「金春流太鼓手附」　小型横本一冊

内題：なし　外題：金春太鼓手附

原装白緑色表紙（九・四×一三・五糎）。中央金箔散らし長形題簽。本文料紙は薄葉紙を使用。添紙を二丁分付す。目次二丁を付す。各丁左下に丁付。墨付五十丁。一枚目に「開心眼　惣右衛門（花押）」と墨書、二枚目に楠川氏蔵書印あり。薄緑地角裂あり。奥書なし。

【内容】　㉛と同装丁で帙風の厚紙に同置されている。楠川氏書写の太鼓金春流の手付で、項目は以下の通り。

太鼓粒付　中之舞上掛　同下掛　天女舞　序之舞上掛　同下掛　真之序上掛　同下掛　早舞上掛　同下掛　神楽上掛下掛　神楽　同下掛　序無神楽　楽　同下掛　邯鄲掛、空下、唐船　枕自動　惣神楽　早舞窕　同居囃子之節　祈　羽之舞　舞働一段　同二段　働打合物　イロエ、カケリ　出羽　早笛　大べし　下り羽　国栖下り羽三段之舞　真之末序　中入来序　楽（割符）　神楽（割符）

〔刊本〕

《金春流》

33　昭和六～十一年わんや書店刊「金春流太鼓手附」　中型横本三冊（天・地・人）

内題：なし

外題：金春流太鼓手附（天之巻・地之巻・人之巻）

各冊「金春流太鼓　（天・地・人）」の小口書あり。各冊本文一丁目に楠川氏蔵書印あり。〔天之巻〕茶色表紙（一二・九×一八・六糎）。昭和七年再版　〔地之巻〕紺色表紙　昭和十一年再版　〔人之巻〕濃緑色表紙　昭和六年版

Hosei University Repository

〔囃子混合〕

［写本］

34　昭和三年楠川正範氏写笛・大鼓手付「太鼓楽・神楽」　小型横本一冊

内題：太コ楽高安大鼓一噌笛（一丁目）　神楽（四丁目）

外題：一噌流笛高安流大鼓太鼓楽　一噌流笛大鼓高安　神楽

仮綴本（八・四×一六・一糎）。紫線入便箋を使用。墨付八丁

【内容】　笛の唱歌に大鼓の手付を朱書して加えたもの。

35　書写年不明「道成寺心得」　一枚

内題：なし　外題：道成寺心得

一九・六×五十二・六糎（八つ折）。

【内容】　〈道成寺〉上演に際しての注意事項を列記したもので、「物着　石井流」「前拍子小鼓大倉流」が中心。表紙に「楠川正範殿」とあるが、書写した人物は不明。楠川氏は昭和二十二年に〈道成寺〉を披いているので、そのときの心得状であったと思われる。

36　書写年不明楠川正範写「謡曲拍子附」　半紙本一冊

内題：なし　外題：謡曲拍子附

仮綴本（二五・二×一七・二糎）。本文料紙は楮紙使用。墨付七丁。奥書なし。表紙に「Koussoukwa」と楠川氏の署名。

【内容】　簡略な間拍子・囃子手付の解説の後に〈羅生門〉クセ・〈蝉丸〉道行・〈羽衣〉クセの小謡を載せる。小謡には朱で直シ及び囃子の手付を付す。

37　昭和八年楠川正範筆「金剛流地拍子難解　全」　一冊

ペン写。ノート（二〇・二×一五・八糎）。表紙に「昭和八年盛夏／金剛流／地拍子難解全」と墨書。目次付。

【内容】　金剛流内組百番の拍子難解箇所を八つ割したもの。目次には二百曲が挙がっているが、曲名のみの記載も若干含む。

38　囃子付　書付　十五点

囃子の手付書付を一括する。

【内容】　［笛森田流］盤渉楽（寺井付）　神楽（二点）　［笛一噌流］盤渉楽（二点）　中之舞（破掛り）　乱　［小鼓］放下僧　田村（クセ）　鉢木（幸流）　神楽　［太鼓］羽衣（金春　盤渉）　朝長　［その他］二点

五　史料

〔習物目録など〕

［写本］

1　書写年不明楠川正範写「観世流小書一覧」　中型横本一冊

内題：小書一覧　外題：観世流小書一覧

（一三・〇×一九・二糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料

Hosei University Repository

紙は楮紙。各丁表左下に丁付あり。墨付十八丁。添紙に蔵書印あり。茶色角裂あり。

【内容】　観世流の小書をいろは順曲ごとに列挙し、下に「小習・中習・別習」を付したもの。観世流転向後に楠川氏自身が書写したものだろう。本書とは別に半紙に同じ内容を写したもの二部（一部は十三枚をホッチキスでとめ、もう一部は十一枚を綴じず）を間に挟む。

2　書写年不明楠川正範写「金剛流習物扣」　小型横本一冊

内題：なし　外題：金剛流習物扣

原装薄茶色表紙（九・〇×一七・二糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。各丁表左下に丁付。墨付三十四丁。奥書なし。添紙に蔵書印あり。

【奥書】　明治廿二年一月十五日／寫

【内容】　金剛流の名寄集であるが、「他流斗之部」「他流獨吟之部」や曲舞・一調なども含む。右の奥書の他、本文十七丁目に「明治廿二年一月十五日　写之　菊甫（花押）」とあるが、筆跡は楠川氏のものに近いので、明治二十二年本を基に楠川氏が後年書写したものと思われる。

3　書写年不明「金剛習事扣」　半紙本一冊

内題：能の秘事　外題：能の秘事

原装浅黄色表紙（二二・四×一六・四糎）。左肩金箔散らし長形題簽。本文料紙は楮紙。墨付十丁。各丁表左下に丁付。浅緑色角裂あり。添紙・一丁目に楠川氏の蔵書印。

【内容】　金剛流の習事を列挙する目録。五1・2と同題簽を用いており、楠川氏自筆と考えられる。

4　脇仕舞目録　二枚

【内容】　「脇仕舞」（主に立働キ）がある十五番（蟻通・春栄・和布刈・羅生門・雲雀山・壇風・国栖・大蛇・愛染川・大江山・弱法師・紅葉狩）と「大夫ト合舞」（シテとワキの斬りあい）がある五番（大江山・紅葉狩・羅生門・雷電・大蛇）の曲名を列挙した目録。全く同じ内容のものが二枚あり、一枚は楮紙、もう一枚は便箋を使用。

〔名寄〕

〔写本〕

5　書写年不明「謡外題揃」　小型横本一冊

内題：なし　外題：謡外題揃

原装布目地茶色表紙（八・五×一五・八糎）。左肩長形題簽。本文料紙は楮紙。墨付二十丁。奥書なし。添紙に蔵書印あり。

【内容】　明治期版の金剛流外題揃と同様に、山岸本内外二百番の順に曲名を並べた名寄。他に「謡本入箱番号表」を加え、列挙した曲名の上に番号を朱書する。この番号の意味は不明だが、謡の等級別のようである。なおこの番号は一13と対応する。

Hosei University Repository

〔刊本〕

6　昭和六年檜書店刊「金剛流昭和版外題揃」　小型横本一冊

内題：なし　外題：金剛流昭和版外題揃

原装布目薄茶色表紙（八・二×九・一糎）。左肩長形題簽。

【刊記】　昭和六年三月一日印刷／同年三月五日發行／京都市二條通麩屋町角／編輯發行兼印刷者　檜常之助／京都市二條通麩屋町角／發行所　檜書店

【内容】　謡本組別名寄。

〔書状〕

7　大正四年金剛右京舞台開案内状　一枚

印刷物。舞台再築にあたっての舞台披能の案内状。

8　昭和四年豊嶋要之助宛金剛右京書状　一枚

脇方高安流宗家を名古屋在住西村大蔵氏の孫滋男氏が相続し、高安家墓前にて報告の法要を行うことの案内状。

9　楠川正範宛金剛巌書状（複写）　一枚

昭和十二年四流の推挙により、金剛宗家となったことの挨拶状

10　楠川正範宛岡田勝夫書状　四枚

楠川氏が主催する金剛茁々会に関する問い合わせ。年は不明だが、九月九日の日付になっている。

〔免状類〕

11㋑　大正六年「誓詞之事」　一枚

初伝が相伝された時の誓詞。楮紙に墨書。金剛流の初伝は以下の二十八曲。〔高砂　淡路　老松　白楽天　道明寺　朝長　道盛　實盛　熊野　松風　井筒　野宮　江口　芭蕉　采女　誓願寺　花形見　三井寺　柏崎　歌占　東岸居士　蟻通　高野物狂　阿古木　通小町　葵上　昭君　山姥〕

本書の全文を示すと以下の通り。「一今般初傳御相傳被成下難有奉存候／然ル上ハ御相傳之儀他言ハ勿論一子タリ／トモ傳ヘ残シ申間敷候／右之條々相背ニ於テハ／天地鎔造　皇祖三神　天照太神　八幡太神／春日太神　殊ニハ　産土諸神之可蒙顕冥／罰者也依テ誓詞状如件／大正六年三月日　米沢市信夫町　楠川敬助（印）／宗家／金剛右京殿」

11㋺　未記入「誓詞」　一枚

印刷物。相伝された事・年月日などが空欄となっている誓詞。宗家の名が金剛巌となっているので、昭和初期のものであろう。㋑と同じ性質のものだが、「御相傳被下難有存候／今後益勉勵可仕依而／誓詞如件」のように他言を慎むことを述べた詞がなくなっている。

12㋑　昭和六年書写謡曲免状扇子料控　一枚

Hosei University Repository

楮紙に墨書。習い物ごとの免状料。最後に「昭和六年九月改ム／二十三世　金剛右京　印（金剛宗家）」とある。

12㋺　昭和六年謡曲相傳目録　一枚

印刷物。二拾八番・神楽・準九番・九番・曲舞十八番・五番習・七口勢舞・三番習・七蘭曲・重習・願書・奥傳ごとに曲目を挙げた目録。赤鉛筆で免状料が記されている。前書と同じく「昭和六年九月改正ス　二十三代　宗家　金剛右京　印（金剛）」とある。

13　昭和十一年金剛宗家謡曲免状扇子料　一枚

印刷物。

〔その他〕

14　演能手記三種

楠川氏がノートに記録した演能手記。自身が演じたものだけではなく、金剛右京などの記録も含む。記事は詳細で、舞台図・作り物図を含むものもある。各冊とも本研究所が簡易製本したコピーがある。

㋑昭和六年～同二十二年分　上下二冊から成るが、下冊は白紙。

㋺昭和四年～同十七年分　布表紙のノート使用。舞台録というよりは、「高砂口伝」「白拍子ノ事」などのように、特に難解な演出事項を記録したものと思われる。

㋩昭和十七年・十八年分　冒頭に幸清流小鼓手付、末尾に他流を中心とした謡の八割譜を載せる。

15　楠川正範筆「謡会心得」　九枚

副題に「特に初心の方のために」とあるように、謡会にはじめに参加する者への諸注意をまとめたメモ。最後に「芳翠会員へお願ひ」という会費に関するメモもあるので、芳翠会の配布資料のための下書きのようである。原稿用紙使用。

16　芳翠会稽古目録　七枚

観世流転流後に楠川氏が主催していた芳翠会の稽古目録。表が謡、裏が仕舞の目録となっており、内六枚には弟子の氏名が記されている。青丸・赤丸が加えられたものがあるが、習得済の曲を示すものだろう。

17　楠川正範筆〈道成寺〉鐘入スケッチ　二枚

〈道成寺〉の鐘入の姿をスケッチしたもの。一枚は楮紙、もう一枚は水色紙を使用。他資料に書かれた図などと類似しているので、楠川氏が書いたものだろう。

六　能番組

1　大正十一年（一組）

舞台開能（11、18、19）。

Hosei University Repository

2　大正十五年(二組)

能楽協会東京支部能(6/25、26)、金剛宗家招待能(8月)。

3　昭和二年(三組)

末廣会(9/24)米澤三曜会(11/6)、能楽協会東京支部能(11/25/27)。

4　昭和三年(九組)

宝生会能楽堂舞台開能・同二日目(4/1、2)土杉謙信公三百五十年祭(4/29)、金剛若葉会(6/2、9/22、11/24)、なでしこの会(6/23)、末廣会(9/23)、御大典奉祝能(10/5、6)。

5　昭和四年(六組)

金剛若葉会(1/25、2/23、4/27、6/22、9/28、11/16)

6　昭和五年(八組)

金剛若葉会(2/15、4/19、6/21、9/20、11/15)、能楽囃子科協議会(4/19)、朝日会館能(10/11)、名古屋能楽会(11/21)。

7　昭和六年(十四組)

金剛若葉会(2/22、4/18、6/20、9/19、11/21)、稲荷祭乱能(4/6)、名古屋能楽堂舞台開能(三種)(4/25、26)、金剛流凌雲社(5/3)、能楽囃子科協議会(5/30)、米澤九曜会(8/18)、今井幾三郎二十五回忌今井栄太郎十三回忌追福能(10/4)、金春惣右衛門主催能(11/3)。

8　昭和七年(十一組)

金剛能楽会例会(一年分冊子)、能楽協会東京支部能(3/19)、金剛若葉会(4/23、6/25、9/17、11/19)、半歌仙会(7/10)、梅若緑謡会(9/8)、清水正徳翁喜寿祝賀囃子会(11/26)、能楽囃子科協議会(12/3)、梢会囃子(12/8)。

9　昭和八年(十七組)

金剛能楽会例会(一年分冊子)、名古屋能楽会例会能(一年分冊子)、金剛流清交会(1/15)、能楽協会東京支部会(2/11)、金剛若葉会(2/18、4/15、9/16)、能楽囃子科協議会(5/20)、同友会追善能(6/17)、金春流青年演能(7/2)、観世会(7/2、8、19)、研能会(7/5)、喜多会(9/24)、金剛会(10/1)、十三世大倉六蔵襲名披露能(11/4)、観世会定期能(11/5)。

10　昭和九年(八組)

金剛流能楽大会(1/21)、金剛若葉会(2/17、9/15、11/24)、能楽協会東京支部能(9/30)、金剛流謡曲会(11

Hosei University Repository

12)、尾崎翁追善能(二種)(11/18)。

11　昭和十年(九組)

金剛若葉会(2/16、6/15、9/24)、高安家累代追善能(3/17)、金剛流謡曲囃子会(5/19)、日加寿能(5/24-26)、高安家累代追善能(6/16)、日加寿能(10/24-26)、金剛謹之輔十三回忌追善能(10/20)。

12　昭和十一年(四組)

金剛若葉会(例会一年分及び岩田昇翁追善能)、謡まつり(5/10)、金櫻会(6/20)、長崎金剛会能(11/14)。

13　昭和十二年(九組)

金剛能楽堂例会予定(一年分)、御謡初式番組(1/3)、故種田嘉三郎十三回忌追福能(追善能開催の案内状一通有)(3/14)、清孝五十回忌養嗣子披露能(3/20、21)、金剛流宗家継承披露能(4/3)、観世九皐会春季別会(4/18)、第三回謡まつり(5/23)、長崎金剛会(7/18)、幸潮会幸家先祖祭能(11/3)。

14　昭和十三年(六組)

なづな会初会(1/29)、喜多会別会(1/30)、第八十回金春会(2/6)、名古屋宝生流普及会(3/26)、東京金剛会(6/11)、五十番会(7/18)。

15　昭和十四年(六組)

金剛流の道成寺(1/12)、金剛流初会能(1/22)、金剛流例会(3/5)、長岡菊三郎追善会(11/12)、能楽会式能(11/19)、金剛流秋季別会(11/26)。

16　昭和十六年(三組)

第二回三省会(5/6)、能楽会式能(11/3)、能楽古面大観出版記念能(11/6)。

17　昭和十七年(四組)

東京金剛会番組予定(一年分。校正人)、幸寿丸建碑供養演能会(8/21)、東京金剛会演能(10/3)、第二回楠川正範後援会(11/29)。

18　昭和十九年(四組)

能楽師協会奉納壮行能(9/18)、軍人援護強化演能(10/7)、銀翼献金五流能楽大会(10/15、17)、錬成能(12/17)。

19　昭和二十年(一組)

都民慰安第二次招待能(1/22-26)。

20　昭和二十一年(七組)

金剛萌々会(5/4、6/22、10/5、11/23)、能楽協会夏季練成会(8/18)、二十日会第十二回招待稽古能(11/20)、

Hosei University Repository

能楽会定式能(12／15)。

21　昭和二十二年(九組)

金剛茁々会(年間予定　1／11、3／22、4／12、6／14、10／11、12／13)、一樹会秋期大会(9／19)。

22　昭和二十三年(四組)

金剛茁々会(年間予定　6／12)、和泉勉・松村利雄披露能楽会(4／3)、小林静雄君追悼式順序予定(4／17)。

23　昭和二十四年(一組)

東京金剛会下半期予定番組。

24　昭和二十五年(一組)

花釜線全通公民館落成記念能楽大会(10／19)。

25　昭和二十六年(十六組)

東西合同能(1／21)、故二十四世観世左近十三回忌追善能(3／4)、観世会定期能(4／1)、野島信十七回忌追善能(5／5)、芳翠会第九回例会(5／20)、鶴諷会二百回記念別会(5／27)、観世会定期能(6／3、7／1、12／2)、歌仙会(7／8)、泰諷会(9／16)、坂井同門会(9／12)、梅猶会(10／6)、観世能楽芸術祭(11／29、30)。

26　昭和二十八年(九組)

観世会(1／4、2／1、7／5)、芳翠会初会(1／18)、寿会初会(1／29)、六平太芸道七十年記念能(3／15)、京華学園女子部同窓会総会(5／2)、第三回東京薪能(二種)(7／27、28)、観世会館建設資金募集第二回素謡会(10／4)、第四回観世流婦人能(10／31)。

27　昭和二十九年(六組)

第五回観世流婦人能(4／3)、秀麗会(5／5)、桂謡会泰諷会秋季別会(9／12)、左門会東西能(9／23)、第六回観世流秋の婦人能(10／2)、観世会定期夜能(10／14)、第四回観世能楽芸術祭(11／27、28)。

28　昭和三十年(十組)

観世会館年間予定　観世会(1／13、2／6、3／6、3／10)、観世会木曜会(1／19)、観世左近十七回忌追善能(3／18-21)、観世会秋の別会(10／21)、清諷会秋季別会(11／26)、観世会素謡会(12／18)。

29　昭和三十一年(一組)

慶應観世会(6／24)。

30　年代不明(四組)

坂井同門会　能楽教室　四月十八日別会能　奉納能楽

Hosei University Repository

七　活字本

1　雑誌『金剛』　十四冊

創刊号(昭和13年1月)、二号(昭和13年3月)～八号(昭和13年10月)、二巻一号(昭和14年1月)、二巻三号(昭和14年5月)～二巻五号(昭和14年8月)、二巻七号(昭和14年11月)、三巻一号(昭和15年1月)、檜書店刊

2　雑誌『能』　十一冊

一巻一号(昭和22年1月)～一巻合併号(十一・十二号)(昭和22年12月)、能楽協会刊。

3　牧俊髙氏能姿木彫の会目録　一枚

昭和六年(一九三一)七月一日～五日　於東京日本橋三越

4『私の能舞台』　一冊

松野奏風画・文　昭和十七年(一九四二)　謡曲界発行所刊

5「金剛家能楽秘宝展」図録　一冊

昭和五十八年(一九八三)　朝日新聞社刊

6『能面選』　一冊

京都国立博物館編　昭和四十年(一九六五)　光琳出版株式会社刊

7『能界大福帖』出版案内　一枚

桜間氏主催七絃会開催時の評を書き留めた大福帖の出版案内。出版予定は昭和三十七年となっている。